



八月は日本の忌や水を飲む	千田 百里
砂時計未来涼しく窪みけり	辻 美奈子
白桃のするする剥けて夫の留守	菊地 光子
葉脈の始点に揺らぐ蓮の露	頓所 友枝
主の胸は十字架の幅秋気澄む	荒井千佐代
思ひ出はみな夕焼の向かう側	栗原 公子
弁解は無用まつ黒けの日焼	町山 公孝
二藍の谷の夜明けを桔梗咲く	平松うさぎ
都会より闇消ゆるなり金木屋	千田 敬
段層に神の依代花野道	矢崎すみ子
青空の見え夕立のど真ん中	佐々木よし子
語部の語勢抑へぬ原爆忌	石崎 和夫
遠花火生くる努力はいつまでも	宮内とし子
聞く耳を無くすためなりサングラス	七田 文子
飛込みの十秒青春の火花	浜田はるみ
忘れたきことは忘れぬ走馬燈	鈴木 基之
ピーマンの何を詰めんと空けてあり	兵藤 恵
風鈴の工房にして熱地獄	中村 重幸
星流る偲ぶにかなふ美しき距離	荒井千瑳子
秋涼し足裏の砂を海が引く	菅原 健一
飛び込みの余白赦さぬ穿ちかな	阿部眞佐朗
潮鳴りや夏は少年男にす	富川 明子
三面鏡に憂ひの角度秋ともし	本池美佐子
木柄杓の香りも木曾の水接待	鈴木 齊夫
役割は一人にひとつ墓詣	澤田 英紀
真炎天行く手ずんずん遠のけり	広海あぐり
あの恋に余説の有りぬ走馬灯	山中 洋子
退院や鰻は食べていいですか	佐々木 茂
街道のいまは抜け道青田波	長山 正子
葉は葉の色に半眼の雨蛙	吉村さよ子

沖 の 水 脈

